

食品安全情報（微生物） No.2 / 2021（2021.01.20）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

(<http://www.nihs.go.jp/hse/food-info/foodinfonews/index.html>)

目次

【[米国疾病予防管理センター（US CDC）](#)】

1. タマネギに関連して複数州にわたり発生したサルモネラ (*Salmonella* Newport) 感染アウトブレイク（最終更新）
2. 小麦粉に関連して発生した志賀毒素産生性大腸菌 O26 感染アウトブレイク（最終更新）

【[Emerging Infectious Diseases \(CDC EID\)](#)】

1. ノロウイルス感染アウトブレイクのサーベイランス（中国、2016～2018年）

【[カナダ公衆衛生局（PHAC）](#)】

1. 公衆衛生通知：米国から輸入されたレッドオニオンに関連して発生したサルモネラ (*Salmonella* Newport) 感染アウトブレイク（最終更新）

【[欧州委員会健康・食品安全総局（EC DG-SANTE）](#)】

1. 食品および飼料に関する早期警告システム（RASFF：Rapid Alert System for Food and Feed）

【[アイルランド食品安全局（FSAI）](#)】

1. 欧州委員会が食品供給および食料安全保障を確保するための危機管理計画に関して意見募集を実施

【[オランダ国立公衆衛生環境研究所（RIVM）](#)】

1. オランダでの食品由来アウトブレイクの発生状況に関する報告書（2018～2019年）

【[ProMED-mail](#)】

1. コレラ、下痢、赤痢最新情報（02）
-

【各国政府機関】

- 米国疾病予防管理センター (US CDC: Centers for Disease Control and Prevention)

<http://www.cdc.gov/>

1. タマネギに関連して複数州にわたり発生したサルモネラ (*Salmonella* Newport) 感染アウトブレイク (最終更新)

Outbreak of *Salmonella* Newport Infections Linked to Onions (Final Update)

October 8, 2020

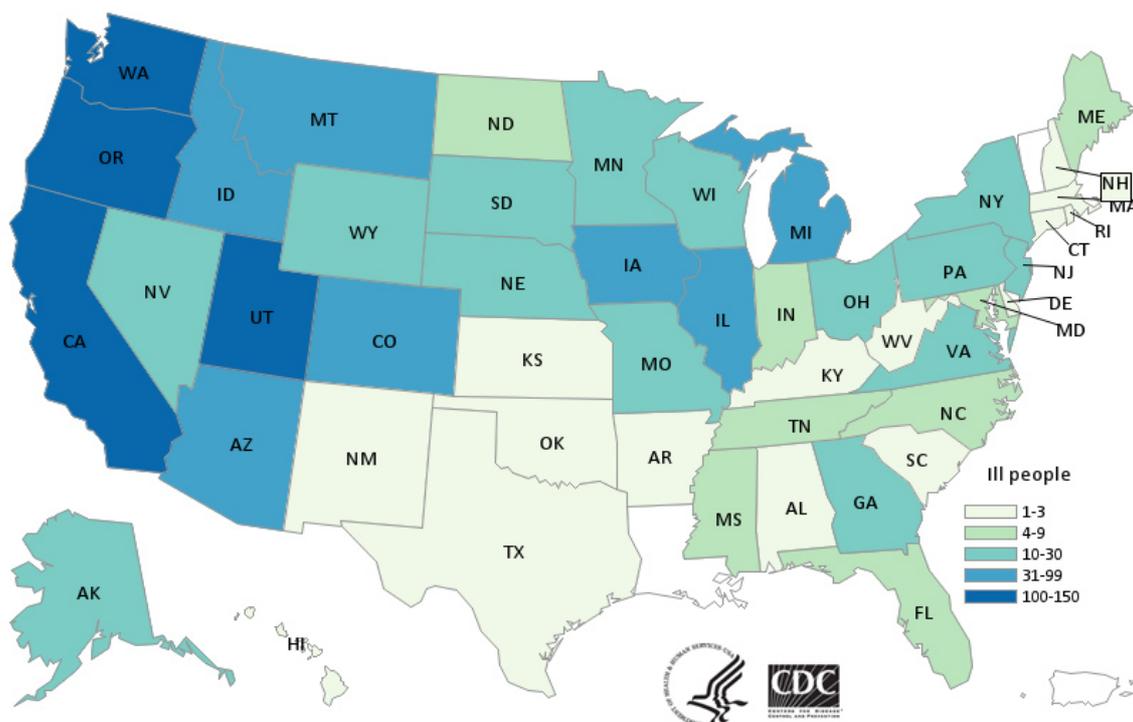
<https://www.cdc.gov/salmonella/newport-07-20/index.html>

米国疾病予防管理センター (US CDC)、複数州の公衆衛生・食品規制当局、米国食品医薬品局 (US FDA) およびカナダ当局は、タマネギに関連して複数州にわたり発生したサルモネラ (*Salmonella* Newport) 感染アウトブレイクを調査した。

本アウトブレイクの公衆衛生調査では、アウトブレイク患者を特定するために PulseNet のシステムを利用した。PulseNet は、公衆衛生・食品規制当局の検査機関による分子生物学的サブタイピング結果を CDC が統括する全米ネットワークシステムである。患者から分離されたサルモネラ株には、標準化された検査・データ解析法である全ゲノムシーケンシング (WGS) 法により DNA フィンガープリンティングが行われる。CDC の PulseNet 部門は、アウトブレイクの可能性を特定するため、このような全ゲノム配列の国内データベースを管理している。WGS 法による解析結果は疾患の原因菌について詳細な情報をもたらす。本アウトブレイク調査では、WGS 解析により患者由来サルモネラ分離株が遺伝学的に相互に近縁であることが示された。この遺伝学的近縁関係は、本アウトブレイクの患者の感染源が共通である可能性が高いことを意味している。

2020 年 10 月 6 日までに、*S. Newport* アウトブレイク株感染患者が 48 州から計 1,127 人報告された。

図：サルモネラ (*Salmonella* Newport) アウトブレイク株感染患者数 (2020年10月6日までに報告された居住州別患者数、n=1,127)



患者の発症日は2020年6月19日～9月11日であった。患者の年齢範囲は1歳未満～102歳、年齢中央値は41歳で、58%が女性であった。情報が得られた患者705人のうち167人が入院した。死亡者は報告されなかった。

患者由来のサルモネラ分離株732株について実施したWGS解析の結果、730株については抗生物質耐性の存在が予測されなかったが、アンピシリン耐性およびテトラサイクリン耐性の存在がそれぞれ1株ずつで予測された。CDCの全米抗菌剤耐性モニタリングシステム(NARMS)検査部門において、標準的な手法により臨床分離株8株の抗生物質感受性試験が実施された結果、耐性は示されなかった。上記の耐性は、大多数の患者の治療に使用される抗生物質の選択に影響を及ぼさないと考えられる。

アウトブレイク調査

疫学・追跡調査から得られたエビデンスは、Thomson International社(カリフォルニア州Bakersfield)由来のレッドオニオンが本アウトブレイクの感染源である可能性が高いことを示した。当該レッドオニオンと共に栽培・収穫されたその他の種類のタマネギ(ホワイトオニオン、イエローオニオン、スイートイエローオニオンなど)も汚染されている可能性が高かった。

患者に対する聞き取り調査において、発症前1週間の食品喫食歴およびその他の曝露歴

について質問が行われた。その結果、患者の 91%がタマネギまたはタマネギを使用した可能性がある食品の喫食を報告した。喫食したタマネギの種類について質問が行われた患者 208 人のうち、137 人 (66%) がレッドオニオン、130 人 (63%) がホワイトオニオン、110 人 (53%) がイエローオニオンを喫食していた。大多数の患者が 2 種類以上のタマネギの喫食を報告した。

FDA および各州当局は、タマネギおよびタマネギを使用した食品を患者が購入または喫食した店舗の記録類を詳細に調査した。この追跡調査により、Thomson International 社が当該レッドオニオンの供給元である可能性が高いことが特定された。

カナダ公衆衛生局 (PHAC) およびカナダ食品検査庁 (CFIA) も、カナダで発生した *S. Newport* 感染アウトブレイクを調査し、米国の本アウトブレイクの患者由来株との遺伝学的関連が WGS 解析により示された。PHAC および CFIA によるアウトブレイク調査から、Thomson International 社が供給したレッドオニオンがカナダのアウトブレイクの感染源である可能性が高いことが特定された。

2020 年 8 月 1 日、Thomson International 社は、サルモネラ汚染の可能性があるととして、すべてのレッドオニオン、イエローオニオン、ホワイトオニオン、スイートイエローオニオンの回収を開始した (以下 Web ページ参照)。

<https://www.fda.gov/safety/recalls-market-withdrawals-safety-alerts/thomson-international-inc-conducts-voluntary-recall-red-yellow-white-and-sweet-yellow-onions-because>

回収対象のタマネギおよび当該タマネギを原材料として使用した食品については、その他の業者も回収を実施した (回収対象製品は CDC の以下 Web ページで参照可能)。

<https://www.cdc.gov/salmonella/newport-07-20/recalls.html>

消費者、レストランおよび小売店は、回収対象のタマネギおよびこれらを使用した製品の喫食・提供・販売をすべきでない。

2020 年 10 月 8 日時点で本アウトブレイクは終息したと考えられる。FDA は本アウトブレイクの根本的な原因を明らかにするため調査を継続している。

(食品安全情報 (微生物) 本号 PHAC、No.19 / 2020 (2020.09.16) 、No.18 / 2020 (2020.09.02) US CDC、PHAC、No.17 / 2020 (2020.08.19) USDA FSIS、US CDC、PHAC、No.16 / 2020 (2020.08.05) US CDC、PHAC 記事参照)

2. 小麦粉に関連して発生した志賀毒素産生性大腸菌 O26 感染アウトブレイク (最終更新)

Outbreak of *E. coli* Infections Linked to Flour (Final Update)

July 11, 2019

<https://www.cdc.gov/ecoli/2019/flour-05-19/index.html>

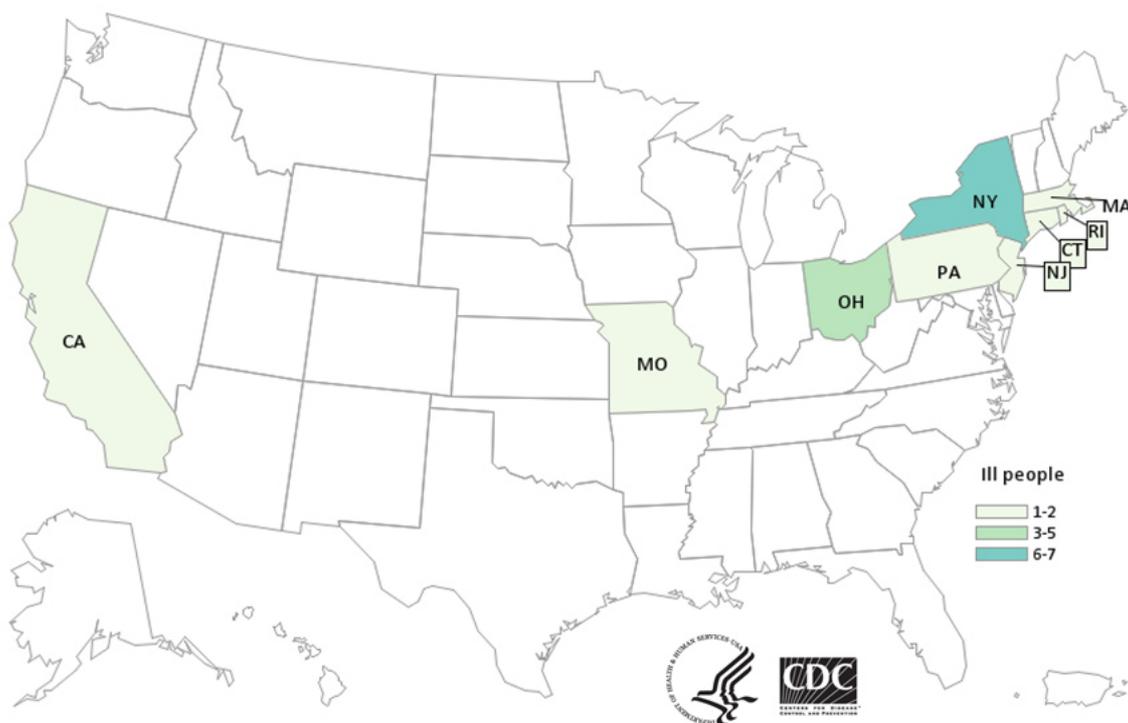
米国疾病予防管理センター (US CDC) 、複数州の公衆衛生・食品規制当局および米国食

品医薬品局 (US FDA) は、小麦粉に関連して複数州にわたり発生した志賀毒素産生性大腸菌 O26 感染アウトブレイクを調査した。

本アウトブレイクの公衆衛生調査では、アウトブレイク患者を特定するために PulseNet (食品由来疾患サーベイランスのための分子生物学的サブタイピングネットワーク) のシステムを利用した。PulseNet は、公衆衛生・食品規制当局の検査機関による分子生物学的サブタイピング結果を CDC が統括する全米ネットワークシステムである。患者から分離された大腸菌株には、PFGE (パルスフィールドゲル電気泳動) 法および WGS (全ゲノムシーケンシング) 法により DNA フィンガープリンティングが行われる。CDC の PulseNet 部門は、アウトブレイクの可能性を特定するため、このような DNA フィンガープリントの国内データベースを管理している。WGS 法による DNA フィンガープリントは、PFGE 法に比べ、より詳細な情報をもたらす。本アウトブレイク調査では、WGS 解析により患者由来大腸菌株が遺伝学的に相互に近縁であることが示された。この遺伝学的近縁関係は、本アウトブレイクの患者の感染源が共通である可能性が高いことを意味している。

2019 年 7 月 11 日までに、大腸菌 O26 アウトブレイク株感染患者が 9 州から計 21 人報告された (図)。

図：大腸菌 O26 アウトブレイク株感染患者数 (2019 年 7 月 11 日までに報告された居住州別患者数、n=21)



患者の発症日は 2018 年 12 月 11 日～2019 年 5 月 21 日であった。患者の年齢範囲は 7

～86歳、年齢中央値は24歳で、71%が女性であった。情報が得られた患者20人のうち3人（15%）が入院した。死亡者は報告されなかった。

患者由来21株および食品由来1株についてWGS解析が実施された結果、抗生物質耐性の存在は予測されなかった。CDCの全米抗菌剤耐性モニタリングシステム（NARMS）検査部門において、標準的な抗生物質感受性試験法により臨床分離株3株の検査が行われたが、抗生物質耐性は示されなかった。

アウトブレイク調査

疫学調査および検査機関での検査から得られたエビデンスおよび製品流通記録は、小麦粉が本アウトブレイクの感染源である可能性が高いことを示している。

患者に対し、発症前1週間の食品喫食歴およびその他の曝露歴に関する聞き取り調査が実施された。聞き取りが行われた13人のうち6人（46%）が、生の自家製生地・衣の喫食または味見を報告した。このうち詳細な情報を報告した3人は、小麦粉「Baker's Corner All-Purpose Flour」を使用した生の生地または衣の喫食を報告した。

ロードアイランド州保健局（RIDOH）の調査により、患者1人が生の生地の喫食を報告したベーカリーから小麦粉に関する記録および小麦粉検体が収集された。記録から、当該ベーカリーで使用された小麦粉は小売チェーンALDIから購入した「Baker's Corner All-Purpose Flour」であったことが示された。当該ベーカリーで採取された未開封の同製品1袋からアウトブレイク株が検出された。

WGS解析の結果、この製品検体から分離された大腸菌O26株は患者由来株と遺伝学的に近縁であることが示された。これらの結果は、本アウトブレイクの患者が当該小麦粉製品の喫食により発症したことを裏付ける更なるエビデンスとなっている。

2019年5月23日、ALDI社はADM Milling社と協力し、大腸菌汚染の可能性があるとして、複数州の小売店舗で販売された5ポンド（約2.27kg）袋入りの「Baker's Corner All-Purpose Flour」の回収を開始した。大腸菌汚染の可能性が考えられる他の製品も回収対象に追加した。FDAの以下のWebページから、これらの回収に関する詳細情報が入手可能である。

<https://www.fda.gov/food/outbreaks-foodborne-illness/outbreak-investigation-e-coli-flour-may-2019>

2019年7月11日時点で、本アウトブレイクは終息したと考えられる。

（食品安全情報（微生物）No.14/2019（2019.07.10）、No.13/2019（2019.06.26）、No.11/2019（2019.05.29）US CDC 記事参照）

● Emerging Infectious Diseases (CDC EID)

<http://wwwnc.cdc.gov/eid/>

ノロウイルス感染アウトブレイクのサーベイランス (中国、2016～2018年)

Norovirus Outbreak Surveillance, China, 2016–2018

Emerging Infectious Diseases, Volume 26, Number 3 – March 2020

<https://wwwnc.cdc.gov/eid/article/26/3/pdfs/19-1183-combined.pdf> (PDF)

https://wwwnc.cdc.gov/eid/article/26/3/19-1183_article

要旨

CaliciNet China は、中国のノロウイルス感染アウトブレイクの疫学および遺伝子型分布を把握するために、中国疾病予防管理センター (Chinese Centers for Disease Control and Prevention) が省や市などの検査機関を統括しているネットワークであり、2016年10月に立ち上げられた。2016年10月～2018年9月にノロウイルス感染アウトブレイク計556件が報告され、このうち470件(84.5%)で陽性便検体の遺伝子型解析が行われた。これらのアウトブレイクの大部分がヒト-ヒト感染であり(95.1%)、発生施設は保育施設または学校(78.2%)、発生時期は各年度の11～3月(63.5%)が多かった。調査対象の2年間に報告された全ノロウイルス感染アウトブレイクのうち、81.2%が遺伝子型GII.2[P16]であった。中国のノロウイルス感染アウトブレイクは保育施設または学校での発生が最も多く、遺伝子型はGII.2[P16]が優勢である。CaliciNet China が継続して行っているサーベイランスにより、ノロウイルスの遺伝子型分布の変動やアウトブレイクの特徴に関する情報が得られ、これらの情報はワクチンなどの効果的な対策の決定に重要である。

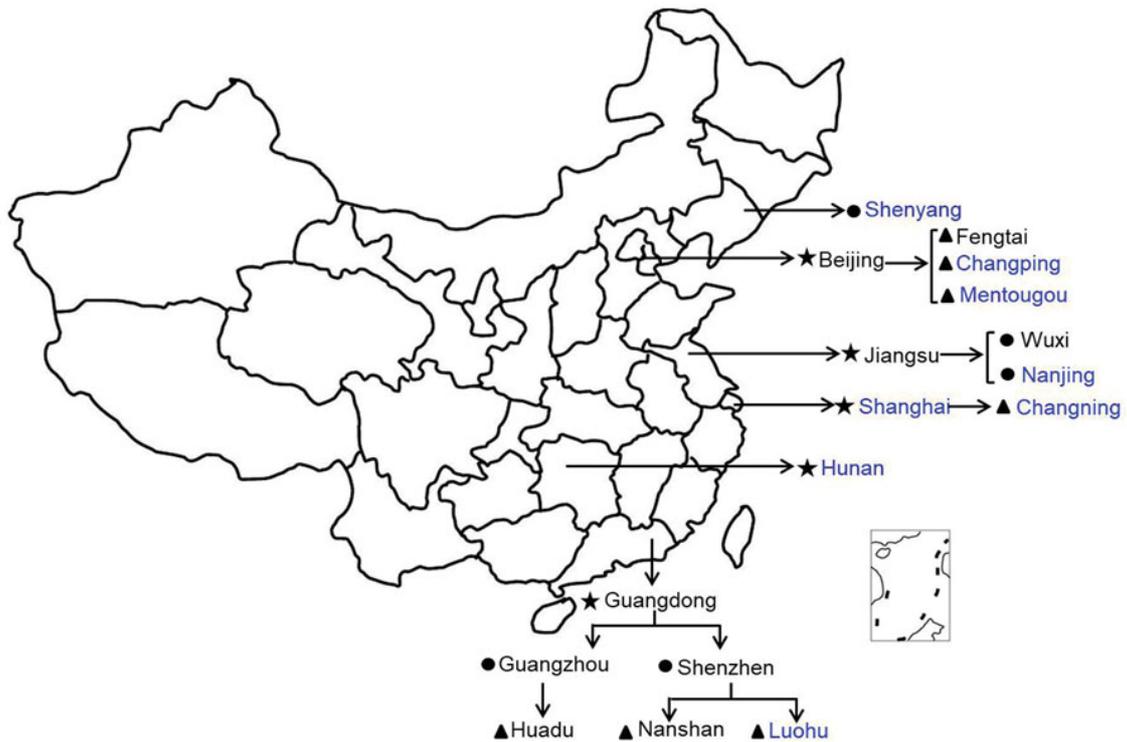
結果

○ ノロウイルス感染アウトブレイクの疫学的特徴

CaliciNet China は2016年に3地域(北京市、広東省、江蘇省)の9検査機関の参加で発足し、参加数は2018年までに中国東部、中央部、西部の6地域(上海市、湖南省、遼寧省を追加)の17検査機関に増えた(図1)。2016年10月～2018年9月に、ノロウイルス感染アウトブレイク計556件がCaliciNet China に報告された。地域別内訳は、320件(57.6%)が広東省、101件(18.2%)が江蘇省、79件(14.2%)が北京市、38件(6.8%)が湖南省、12件(2.2%)が遼寧省および6件(1.1%)が上海市からの報告であった。アウトブレイクの多くが冬季(11月～3月)に発生していた(図2)。アウトブレイクの規模に関する情報が427件(76.7%)で報告され、1件あたりの患者数の中央値は15人(四分位範囲:12～81.5)であり、200人を超えるアウトブレイクが5件あった(表1)。このうち3件は大学で、2件は専門学校で発生した。また、4件はヒト-ヒト感染で、1件は食品由来感染であった。全556件のうち、280件(50.4%)は保育施設、155件(27.9%)は初等教育機関(primary school)【日本における小学校】、61件(11.0%)は中等教育機関(middle

school) 【日本における中学校・高校】、24 件 (4.3%) は大学で発生した。感染経路が特定された 452 件 (81.3%) では、ヒト→ヒト感染が最も多く (430 件、95.1%)、次いで食品由来 (13 件、2.9%)、水由来 (6 件、1.3%) であった (表 2)。

図 1：疾病予防管理センター (Centers for Disease Control and Prevention) の CaliciNet China に参加している検査機関の位置 (2016 年 10 月～2018 年 9 月)



「★」：省／直轄市の検査機関

「●」：市の検査機関

「▲」：地区などの検査機関

黒字：2016 年 4 月に参加

青字：2017 年 4 月に参加

図2: CaliciNet Chinaに報告されたノロウイルス感染アウトブレイク件数の月別分布(2016年10月~2018年9月)

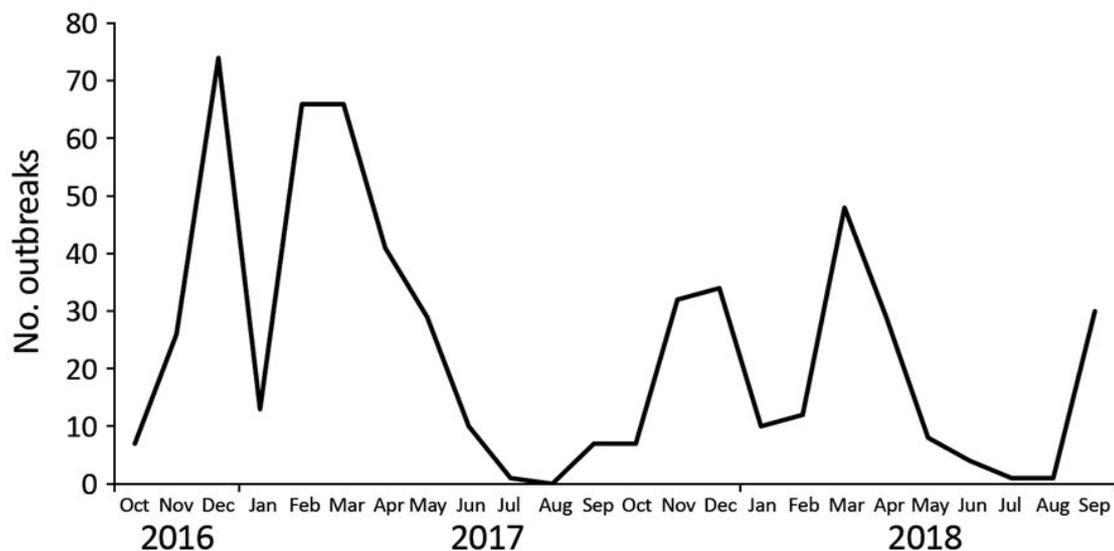


表1: CaliciNet Chinaに報告されたノロウイルス感染アウトブレイク556件のウイルスの遺伝子型(2016年10月~2018年9月)

Table 1. Genotype of cases in 556 norovirus outbreaks reported to CaliciNet China, October 2016–September 2018

Genotype	No. outbreaks		Median no. cases
	with known size	No. cases or range	
GII.1[P33]	1	43	43
GII.2[P2]	1	15	15
GII.2[P16]	262	3–236	18
GII.3[P12]	21	3–72	7
GII.4 Sydney[P31]	7	3–50	43
GII.6[P7]	12	4–72	12
GII.8[P8]	2	11–13	12
GII.13[P21]	1	14	14
GII.14[P7]	0	0	0
GIX.1[P15]	1	17	17
GII.17[P17]	14	3–360	33
GII.17[P31]	2	6	6
GII untypeable	11	7–115	15
GI.1[P1]	0	0	0
GI.2[P2]	11	5–122	31
GI.3[P13]	5	5–72	16
GI.5[P12]	1	5	5
GI.6[P11]	5	6–117	30
Multiple genotypes	11	5–348	60
Not determined*	59	3–106	10
Total	427	3–360	15

*The genotyping reverse transcription PCR for these outbreaks was not conducted by network laboratories.

*これらのアウトブレイクについては、ネットワークに参加している検査機関での RT-PCR 法による遺伝子型解析は行われなかった。

表 2 : CaliciNet China に報告されたノロウイルス感染アウトブレイクの感染経路・発生施設別件数 (2016 年 10 月～2018 年 9 月)

Table 2. Number of norovirus outbreaks reported to CaliciNet China for each transmission route and outbreak setting, October 2016–September 2018

Setting	Person-to-person	Foodborne	Waterborne	Unknown	Total
Childcare center	227	2	0	51	280
Primary school	121	3	0	31	155
Middle school	40	3	5	13	61
University	15	3	1	5	24
Company	7	1	0	1	9
Restaurant	2	0	0	2	4
Hospital	3	0	0	0	3
Hotel	1	0	0	1	2
Party	0	0	0	1	1
Multiple school types*	14	1	0	1	16
Unknown	0	0	0	1	1
Total	430	13	6	107	556

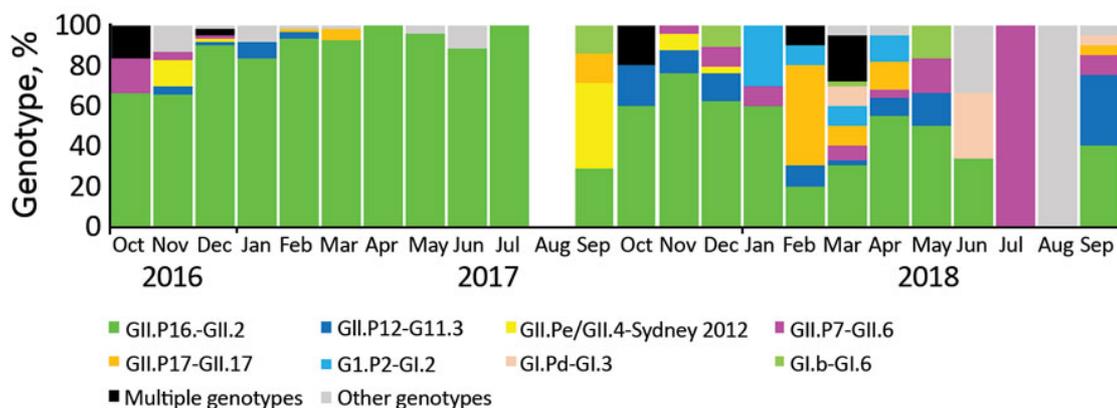
*Fifteen outbreaks occurred in schools that combine primary school and middle school, and 1 outbreak occurred in a school that combines a childcare center, a primary school, and a middle school.

*初等教育・中等教育の一貫校で発生したアウトブレイクが 15 件、保育施設・初等教育・中等教育の一貫校で発生したアウトブレイクが 1 件

○ 遺伝子型

全アウトブレイク 556 件のうち 470 件 (84.5%) について遺伝子型に関する情報が得られた。遺伝子型が報告されなかった 86 件 (15.5%) のうち、72 件はネットワークに参加している検査機関による遺伝子型解析が行われず、残り 14 件はリアルタイム RT-PCR (rRT-PCR) 法で陽性であったが従来の RT-PCR 法では陰性となったため、遺伝子型解析が行えなかった。遺伝子型が決定されたアウトブレイク 470 件のうち、430 件 (91.5%) が GII、26 件 (5.5%) が GI で、残り 14 件 (2.5%) には GI および GII の両方に陽性の検体が認められた。全体で、5 種類の GI および 12 種類の GII が検出された。遺伝子型が決定されたアウトブレイク 470 件のうち、GI は GI.2[P2] (11 件、2.3%)、GI.6[P11] (6 件、1.3%)、GI.3[P13] (5 件、1.1%) などであった。GII 感染アウトブレイクのうち 349 件 (74.3%) が GII.2[P16] で、この血清型は調査対象の全期間を通して検出され、2016～2017 年の冬季がピークであった (図 3)。GII では、その他に GII.3[P12] (25 件、5.3%)、GII.17[P17] (18 件、3.8%)、GII.6[P7] (16 件、3.4%)、GII.4 Sydney[P31] (11 件、2.3%) などが検出された。アウトブレイクでの検出率が 1%未満であった遺伝子型は、GI では、GI.1[P1]、GI.3[P13]、GI.5[P12] および GI.6[P11] であり、GII では、GII.1[P33]、GII.2[P2]、GII.8[P8]、GII.13[P21]、GII.14[P7]、GIX.1[P15] および GII.17[P31] であった。2016～2017 年の冬季には GII.2[P16] が流行して GI の検出はまれであったが (298 件中 1 件、0.3%)、次の季節 (2017～2018 年) では 172 件中 24 件 (13.9%) で GI が検出され、ピークは 2018 年 3 月 (25 件中 10 件、40.0%) であった。複数種の遺伝子型によるアウトブレイクは 2018 年 3 月に多く発生し (14 件中 9 件、64.3%)、主として GII.17[P17] が 2018 年 1～4 月 (14 件中 9 件、64.3%)、GII.6[P7] が 2017～2018 年の冬季 (16 件中 13 件、81.3%) に検出された。

図 3 : CaliciNet China に報告されたノロウイルス感染アウトブレイク 470 件の遺伝子型分布 (2016 年 10 月～2018 年 9 月)



(2017 年 8 月はアウトブレイクの報告がなかった)

○ 疫学的特徴と関連する遺伝子型

GI.2[P16]感染アウトブレイクでは、食品由来が 276 件中 10 件 (3.6%) およびヒトーヒト感染が 276 件中 266 件 (96.4%) で、水由来アウトブレイクの報告はなかった ($\chi^2=10.5$, $p=0.003$) (表 3)。複数種の遺伝子型によるアウトブレイクは、単一の遺伝子型のものより、水由来および食品由来に関連する頻度が高かった。

GI.2[P16]は、保育施設および学校で発生したすべてのアウトブレイクにおいて最も優勢な遺伝子型であった。GI.3[P12]感染アウトブレイクは、保育施設 (280 件中 19 件、6.8%)、初等教育機関 (155 件中 3 件、1.9%) および中等教育機関 (61 件中 1 件、1.6%) で多く発生した。GI.17[P17]感染アウトブレイクは、大学 (24 件中 2 件、8.3%)、中等教育機関 (61 件中 4 件、6.6%)、初等教育機関 (155 件中 7 件、4.5%) および保育施設 (280 件中 2 件、0.7%) で多く発生した。GI.2[P2]感染アウトブレイクは、中等教育機関で最も多く発生した (61 件中 5 件、8.2%) ($\chi^2=12.907$, $p=0.002$)。検体から複数種の遺伝子型が検出されたアウトブレイク 14 件のうち、4 件が大学、6 件が中等教育機関、1 件が初等教育機関および 3 件が保育施設で発生した。

表 3 : CaliciNet China に報告されたノロウイルス感染アウトブレイクの遺伝子型・感染経路別件数、2016 年 10 月～2018 年 9 月

Table 3. Transmission routes of genotypes in norovirus outbreaks reported to CaliciNet China, October 2016–September 2018

Genotype	Person-to-person	Foodborne	Waterborne	Unknown	Total
GII.1[P33]	1	0	0	0	1
GII.2[P16]	266	10	0	73	349
GII.2[P2]	1	0	0	1	2
GII.3[P12]	20	0	0	5	25
GII.4 Sydney[P31]	6	0	0	4	10
GII.Pe-GII.4	1	0	0	0	1
GII.6[P7]	11	1	0	4	16
GII.8[P8]	2	0	0	0	2
GII.13[P21]	1	0	0	0	1
GII.14[P7]	0	0	0	1	1
GI.X.1[P15]	1	0	0	1	2
GII.17[P17]	13	0	0	5	18
GII.17[P31]	2	0	0	0	2
GII untypeable	14	0	0	0	14
GI.1[P1]	1	0	0	0	1
GI.2[P2]	10	0	0	1	11
GI.3[P13]	4	0	1	1	6
GI.5[P12]	2	0	0	0	2
GI.6[P11]	5	0	0	1	6
Multiple	6 ^a	1	5	2	14
Unknown	63	1	0	8	72
Total	430	13	6	107	556

● カナダ公衆衛生局 (PHAC: Public Health Agency of Canada)

<http://www.phac-aspc.gc.ca/>

公衆衛生通知：米国から輸入されたレッドオニオンに関連して発生したサルモネラ (*Salmonella* Newport) 感染アウトブレイク (最終更新)

Public Health Notice: Outbreak of *Salmonella* infections linked to red onions imported from the United States

October 1, 2020 - Final Update

<https://www.canada.ca/en/public-health/services/public-health-notices/2020/outbreak-salmonella-infections-under-investigation.html>

カナダ公衆衛生局 (PHAC) は、連邦・州の公衆衛生当局、米国疾病予防管理センター (US CDC) および米国食品医薬品局 (US FDA) と協力し、カナダの 7 州にわたり発生したサルモネラ (*Salmonella* Newport) 感染アウトブレイクを調査した。本アウトブレイクに関連した *S. Newport* 感染患者の報告が直近 3 週間で大幅に減少していることから、本アウトブレイクは終息したとみられ、アウトブレイク調査は終了した。

調査の結果、米国から輸入されたレッドオニオンへの曝露が本アウトブレイクの感染源である可能性が高いことが特定された。患者の多くが発症前にレッドオニオンを喫食した

と報告した。

カナダおよび米国の公衆衛生・食品安全当局による合同調査で得られた追跡情報から、汚染されたレッドオニオンは米国の Thomson International 社（カリフォルニア州 Bakersfield）から供給されたことが特定された。

カナダ食品検査庁（CFIA）は、カナダに輸入された回収対象製品について食品回収警報を発した（以下 Web ページ参照）。

<https://www.inspection.gc.ca/about-cfia/transparency/regulatory-transparency-and-openness/food-safety-investigations/outbreak-of-salmonella-infections-linked-to-red-onion/eng/1596550549442/1596550550020>

回収対象製品（以下 Web ページ参照）およびこれらを使用した食品は喫食すべきでない。

<https://www.inspection.gc.ca/about-cfia/transparency/regulatory-transparency-and-openness/food-safety-investigations/outbreak-of-salmonella-infections-linked-to-red-onion/eng/1596550549442/1596550550020#a1>

カナダ産のタマネギは本アウトブレイクに関連していない。

調査の概要

2020年10月1日までに、本アウトブレイクに関連して計515人の *S. Newport* 感染確定患者が報告され、州別の内訳はブリティッシュ・コロンビア(121人)、アルバータ(293)、サスカチュワン(35)、マニトバ(26)、オンタリオ(14)、ケベック(25)およびプリンス・エドワード・アイランド(1)であった。

患者の発症日は2020年6月中旬～8月下旬であった。患者79人が入院した。患者3人が死亡したが、サルモネラ感染がこれらの患者の死亡の原因ではなかった。患者の年齢範囲は1～100歳で、54%が女性であった。

患者は、家庭、レストランまたは介護施設で料理に使用されたレッドオニオンを喫食したと報告した。

CFIA は食品安全調査を実施し、本件に関連して食品回収警報を発した。回収対象製品に関する詳細情報は CFIA の Web ページから入手可能である。

US CDC も米国内で発生した *S. Newport* 感染アウトブレイクについて報告しており、その原因株は、カナダで報告された本アウトブレイクの患者由来株と DNA フィンガープリントが類似していた。

(食品安全情報(微生物) 本号 US CDC、No.20/2020 (2020.09.30) PHAC、No.19/2020 (2020.09.16)、No.18/2020 (2020.09.02) US CDC、PHAC、No.17/2020 (2020.08.19) USDA FSIS、US CDC、PHAC、No.16/2020 (2020.08.05) US CDC、PHAC 記事参照)

- 欧州委員会健康・食品安全総局 (EC DG-SANTE: Directorate-General for Health and Food Safety)

http://ec.europa.eu/dgs/health_food-safety/index_en.htm

食品および飼料に関する早期警告システム (RASFF : Rapid Alert System for Food and Feed)

http://ec.europa.eu/food/safety/rasff_en

RASFF Portal Database

<https://webgate.ec.europa.eu/rasff-window/portal/>

Notifications list

<https://webgate.ec.europa.eu/rasff-window/portal/?event=searchResultList>

2021年1月1日～13日の主な通知内容

警報通知 (Alert Notification)

オランダ産冷蔵チーズのリステリア (*L. monocytogenes*, <10 CFU/g)、ポーランド産冷凍鶏脚肉のサルモネラ (*S. Enteritidis*, 25g 検体陽性)、ハンガリー産冷凍スイートコーン (ブランチング済み) のリステリア (*L. monocytogenes*, 25g 検体陽性)、ベルギー産冷蔵牛肉メルゲーズソーセージのサルモネラ (10g 検体陽性)、ポーランド産冷凍鶏肉のサルモネラ (*S. Enteritidis*, 25g 検体陽性)、ベルギー産鶏肉製品 (チーズ入り) のサルモネラ (25g 検体陽性) など。

注意喚起情報 (Information for Attention)

ポーランド産冷蔵ブロイラーもも肉・むね肉ステーキのサルモネラ (group C, 25g 検体陽性)、オランダ産冷蔵チキンラップサンド (スイートチリソース入り) のリステリア (*L. monocytogenes*, 25g 検体 2/5 陽性)、フランス産冷蔵七面鳥肉・内臓のサルモネラ (*S. Typhimurium* 単相性, 25g 検体陽性)、トルコ産イヌ用餌のサルモネラ (25g 検体陽性)、スペイン産ゴートチーズのリステリア (*L. monocytogenes*, <10 CFU/g) など。

フォローアップ喚起情報 (Information for follow-up)

ベルギー産菜種搾油粕のサルモネラ (*S. Agona*, 25g 検体陽性)、ポルトガル産の生羊乳チーズの大腸菌 (1,300,000 CFU/g)、エストニア産ヒマワリ種子殻ペレットのサルモネラ (25g 検体陽性)、ポーランド産冷凍鶏むね肉のサルモネラ (*S. Infantis*, 25g 検体陽性)、ハンガリー産ヒマワリペレットのサルモネラ (25g 検体陽性)、オランダ産トルティーヤラップサ

ンドのカビなど。

通関拒否通知 (Border Rejection)

トルコ産ドライトマトの A 型肝炎ウイルス (25g 検体陽性)、ブラジル産黒コショウのサルモネラ (25g 検体 3/10 陽性)、中国産チリパウダーのサルモネラ (25g 検体 1/5 陽性) など。

● アイルランド食品安全局 (FSAI: Food Safety Authority of Ireland)

<http://www.fsai.ie/>

欧州委員会が食品供給および食料安全保障を確保するための危機管理計画に関して意見募集を実施

EU Commission consultation on contingency plan for ensuring food supply and food security

11 December 2020

<https://www.fsai.ie/farm-to-fork-strategy.html>

欧州委員会 (EC) は「農場から食卓まで (farm to fork)」戦略を策定しており、危機発生時に欧州連合 (EU) の食品供給および食料安全保障を確保するための危機管理計画の作成がこれに含まれている。新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) のパンデミックや最近のその他の問題から得られた教訓にもとづいて、EC は危機発生時に従うべき手順書の作成を計画している。この手順書には、EU の食料安全保障にとって脅威となり得る危機的事例に対して、効果的に準備および対応するための EU の危機対応システムの確立が含まれている。意見募集のため、この EU 食品危機管理計画のロードマップが EC によって公表された。

この意見募集は、食品供給チェーン (生産者、漁業、貿易業、加工業、流通業、小売業、食品提供業) の管理者とその関連協会、食品提供チェーンにおけるその他の利害関係者 (供給業者、運搬業者、保険業者など)、消費者と消費者団体、市民団体、EU 加盟国の代表者と関係当局、国際機関と第三国、科学者コミュニティ、政策支援団体などを対象としている。

この意見募集は 2021 年 1 月 13 日までである。詳細は以下 Web ページから入手可能。

<https://ec.europa.eu/info/law/better-regulation/have-your-say/initiatives/12770-Contingency-plan-for-ensuring-food-supply-and-food-security>

● オランダ国立公衆衛生環境研究所 (RIVM: Rijksinstituut voor Volksgezondheid en Milieu)

<http://www.rivm.nl/>

オランダでの食品由来アウトブレイクの発生状況に関する報告書 (2018～2019年)

Records of food-related outbreaks: in the Netherlands, 2018-2019

2020-11-19

<https://www.rivm.nl/bibliotheek/rapporten/2020-0131.pdf> (報告書 PDF)

<https://www.rivm.nl/bibliotheek/rapporten/2020-0131.html>

食品はヒトの疾患の原因となり得る。2人以上が同じ食品を喫食後に同時期に疾患を発症する事例を「食品由来アウトブレイク (food-related outbreak)」と呼ぶ。オランダでは、2006～2017年には食品由来アウトブレイク計 4,155 件および患者計 21,802 人が登録された。2018年にはアウトブレイク 756 件および患者 2,805 人、2019年はアウトブレイク 735 件および患者 3,058 人が報告された。2017年までと同様、食品由来アウトブレイクで最も多く報告された病原体は依然としてノロウイルスであり、2018～2019年はサルモネラ、カンピロバクターがこれに続いて多く報告された。

これらの数値は、オランダ食品消費者製品安全庁 (NVWA) および地方自治体保健サービス当局 (GGDs) からの報告に基づいている。両機関は、さらなる患者の発生およびアウトブレイクの発生を防止するため、食品由来感染症と食中毒の登録および調査を行っている。この目的のため、両機関は専門知識を駆使し、感染源および原因病原体の特定に取り組んでいる。NVWA は、食品の病原体汚染の有無、その食品の供給元、製造場所および流通地域の調査を行っている。GGDs は、汚染食品に曝露した人に焦点を当て、その情報から可能性がある汚染源の推定に取り組んでいる。

RIVM は、これら両機関のデータの統合・分析を行っている。この方法により、オランダの食品由来アウトブレイクの原因となる要因、発生頻度、経年的な変動・傾向に関する見解が得られる。本報告書に記載されている数値は、食品由来アウトブレイクの実際の発生件数および患者数が過小評価されたものと考えられる。その理由として、特に、患者が一般診療医 (GP) の受診や NVWA への報告を必ず行うとは限らないこと、また、汚染食品が感染源であったかどうかは必ずしも明らかになるとは限らないことが挙げられる。

(食品安全情報 (微生物) No.12/2020 (2020.06.10)、No.23/2018 (2018.11.07)、No.24/2017 (2017.11.22)、No.24/2016 (2016.11.22)、No.24/2015 (2015.11.25)、No.3/2015 (2015.02.04)、No.23 / 2013 (2013.11.13)、No.18 / 2012 (2012.09.05)、No.18 / 2011 (2011.09.07)、No.22 / 2010 (2010.10.20)、No.14 / 2009 (2009.07.01)、No.21 / 2007 (2007.10.10)、No.1 / 2006 (2006.01.06) RIVM 記事参照)

● ProMED-mail

<https://promedmail.org>

コレラ、下痢、赤痢最新情報 (02)

Cholera, diarrhea & dysentery update (02)

8 January 2021

コレラ

国名	報告日	発生場所	期間	患者数	死亡者数
トーゴ	1/4	ロメ市	2020/11/11 ~12/28	(死亡者含む疑い) 67 (培養検査で 41 検体中 17 検体陽性)	2
モザンビーク	1/6	カーボ・デル ガード州	2020/12/20~	(死亡者含む確定) 11 (急性下痢) 200 以上	1
			2020 年 1 月 ~2021/1/5	2,125	37
ソマリア	1/4		2020/12/21~27	(疑い) 64	0
			2020 年	(死亡者含む疑い) 6,589	33
		Banadir	2020 年		20
		Baidoa	2020 年	587 検体中 175 検体陽性	

ソマリアの 2020 年 4 月の豪雨の際の報告患者数

Banadir (4,037 人)、Hiran (948)、Middle Shabelle (560)、Bay (935)、Lower Shabelle (109)

食品微生物情報

連絡先：安全情報部第二室